

■鎌倉市本庁舎整備方針（素案）からの主な修正内容

第4回策定委員会での指摘をもとに修正を行った箇所は表1のとおり。修正後の鎌倉市本庁舎整備方針（素案）についてパブリックコメントを実施した。パブリックコメント実施期間中に関係各課への照会等により修正を行った箇所は表2のとおり。なお、パブリックコメントにより修正等した箇所はありません。

表1 第4回策定委員会からパブリックコメントまでの主な修正事項

番号	ページ	箇所	主な修正事項
1	p.1	ページ下部	□50年規模のスパンで人口動向や社会動向の変化を考慮した第3次鎌倉市総合計画基本構想を踏まえている再編計画を上位計画としていることを明記
2	p.4	図表 0-3	□整備方針全体の構成を把握しやすいようにフロー図を追加
3	p.20	4. 現在の本庁舎敷地の諸条件等	□現在の本庁舎敷地の諸条件等（地域地区、風致地区、景観地区、斜線制限、周知の埋蔵文化財包蔵地）についての内容を追加
4	p.25 等	第2章タイトル	□第2章のタイトルを修正 ・「整備方針の評価について」 ⇒「整備パターンの評価について」
5	p.29	図表 2-3	□案③については、建替え（案③-1）と長寿命化（案③-2）で、各機能のボックスの大きさを統一
6	p.35	図表 2-9	□「⑦本庁舎立地の場所性」の評価として、意義・精神性も重視して評価していることが伝わるように、考え方に「・地域にとってのシンボル性」を明記
7	p.37 等	評価軸⑧	□庁舎整備の標準的な整備期間について記載しているが、目標年次を示すものではないため、全体的に以下のとおりに修正 ・「整備スケジュール」⇒「整備に要する期間」
8	p.47	下から二行目	□公共施設再編計画に掲げる小学校の統廃合も踏まえた整備候補地の検討であることを伝わるように、市有地の抽出について一項目を追加
9	p.50	図表 2-22	□整備パターンの指標と評価軸が整備候補地の評価に当たっても反映されていることが伝わるよう、評価項目の順番を図表 2-15（42 ページ）と合わせた。また、移転先によって評価が変わるものではない評価軸については省略している旨を※で表下に追記

			<input type="checkbox"/> 整備候補地の「③災害応急対策活動の拠点」の評価について文言を追記 <input type="checkbox"/> 素案の段階から深沢地域整備事業用地（行政用地）全体が埋蔵文化財包蔵地に該当していることは「⑧-2埋蔵文化財調査」の評価結果に記載していたが、改めて備考欄にもその旨を追記 <input type="checkbox"/> 野村総合研究所跡地の一部が歴史的風土特別保存地区や史跡北条氏常盤亭跡であることを備考欄に追記
10	p.53	2)一行目	<input type="checkbox"/> 本庁舎整備の基本方針として、現在の本庁舎の在り方にこだわらずに今後も具体的な検討を進めていくことを記載
11	p.53～54	2)①	<input type="checkbox"/> 災害の受援力の確保を重視していくために本文を加筆修正
12	p.57	1)②	<input type="checkbox"/> PPP や民間活力の活用について取り組んでいくことが明確に伝わるように本文を加筆修正
13	p.58～59	参考	<input type="checkbox"/> PFI・PPP の活用について参考となる庁舎整備事例（横浜市瀬谷区、豊島区）を追加掲載

表2 パブリックコメント実施期間中の主な修正事項

番号	ページ	箇所	主な修正事項
1	全体的に		<input type="checkbox"/> 誤字等の修正、文言の統一 <input type="checkbox"/> 本文と注釈における和暦記載に西暦を追加 (例) 平成 28 年⇒平成 28 (2016) 年 <input type="checkbox"/> 図番号の修正、写真番号の挿入 <input type="checkbox"/> 引用図の出典名の明記 等
2	p.7	注釈※3	<input type="checkbox"/> 現在の本庁舎敷地の払い下げの記載を修正 ・「御用邸」⇒「御用邸の跡地」
3	p.32	図表 2-6	<input type="checkbox"/> 本庁舎は災害時の司令塔としての機能が求められているため、そのことが明確に伝わるよう、「③災害時の対応力・受援力」の評価結果を以下の通り修正 ・「避難場所には適さない」 ⇒「災害応急対策活動等には適さない」